

未来をひらく 思いをつたえる

Hirakû

24

表紙：クラフト“楽しいクリスマス”

大きなクリスマスツリーに飾り付けをしていると、空から大勢のサンタさんとトナカイが舞い降りてきました。

これからみんなのおうちに届けるプレゼントの準備を始めるのでしょうか。

今年のクリスマスにみんなはどんなプレゼントをもらえるのかな？

アイデアを お待ちしております！

「Hiraku」では、英語・幼児教育の最新ニュースやトピックなど皆さまに役立つ情報をお届けいたします。

- ・最近気になっていること
- ・取り上げてほしい話題
- ・新しいコンテンツ etc...

皆さまからのご意見・ご要望を
お待ちしております！

「Hiraku」編集部

TEL：06-6135-0150

Mail：hiraku@kinderkids.ed.jp

Hirakû

2022年11月発行 Vol.24

次回1月末
発行予定

株式会社キンダーキッズ

TEL：06-6135-0150

〒530-0033 大阪市北区池田町3-1

ぶらら天満ビル2F

www.kinderkids.com



★My Stepping Stone

★インフィニティ初等部
「お金の授業」について

★ひと&カルチャー

★Grad Club

「卒園生に聞く」





My Stepping Stone (File4)

スタート地点はキンダーキッズ。卒園後、自らの力で切り開いたフィールドで、奮闘している卒園生をご紹介します。

英検1級合格、TOEIC960点獲得 トロント大学交換留学 英語を武器に学生起業も実現



現在友人と共に起業した
オンライン英会話教室を運営中



幼い頃からきちんと宿題をする
習慣が身についたことによって、
その後も集中力を保持して
勉強することに役立ったと振り返る

西宮校
卒園生 S.Hさん
関西学院大学
3 年生

キンダーキッズでの思い出

園内にまだ遊び場がなかったころ、月に必ず1度は連れて行っていただいた遠足が非常に楽しかったことを鮮明に覚えています。園内では見られない景色や光景を一所懸命目に焼き付けていました。またテーマカリキュラムで習った宇宙についてとても興味を持ち、「木星と土星を実際にこの目で見てみたい!」というのが最初の夢になりました。小学校受験の書類にも、将来の夢としてそれを書きました。

世界の学生と英語で競い合ったWSC

高校3年生の時に世界各国の中学生が英語で教養を競う総合競技「World Scholar's Cup 2019」に出場し、イェール大学で行われた世界決勝大会に進出することができました。そこには優秀なだけではなく個性豊かな学生が世界中から集まり、彼らと交流し競い合ったことは本当に楽しく有意義な経験となりました。この大会をきっかけに正式に英語部に入部、大学入学後も英語部で英語のディベート活動などを続けています。WSCでの体験は今まで自分が如何に狭い世界で生きていたかを実感することになり、視野を海外に広げるようになりました。後のトロント大学留学へとつながりました。

世界レベルの力を痛感したトロント大学

トロント大学は世界でもトップクラスの大学なので、その授業についていくことは非常に難しく、休日も朝起きてから夜まで、ただひたすら勉強するばかりの日々でした。自らに極めて高い基準・目標を課す圧倒的に優秀な学生ばかり集まっていて、日本の大学との大きな差を痛感させられました。そこで一緒に学ぶことは本当に大変でしたが、とても良い刺激を受けることができました。

将来の目標について

現在オンライン英会話教室のビジネスを運営していること、発達障害児童の学習支援団体からの依頼で子どもたちに英語を教えていること、子ども食堂でのボランティアの体験などから、教育関連業にはとても関心を持っています。まだ漠然とした夢ですが、既存の学校に適應できない子どもの受け皿として特化したような学校ができれば、と考えています。



中山代表、当時の西宮校マネージャーと会談

Sさんのお母さまより

語学だけでなく国際的な感性も キンダーキッズでの教育の成果

当時のキンダーキッズではまだ英検対策の講座は行われていなくて、一部の熱心な保護者が集まって一緒に英検対策の勉強会をしていました。でも本格的な対策はやはり難しく、キンダーにお願いをしたことから英検対策クラスがスタートしました。また日本語の歌を習う音楽クラスも保護者からの要望で始まったことを覚えています。このような柔軟でスピーディな対応は一般の日本の幼稚園ではなかなか無いのではないのでしょうか。

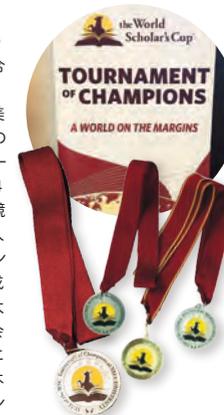
キンダーに通わせた元々の理由は、私自身が語学に非常に関心があったからなのですが、結果的に娘は語学だけでなく、心の部分でもインターナショナルな感性を持った人間へと成長したと思います。**どんな国に行っても物怖じなく人と関わりあい、感情を分かち合う姿を見て本当にキンダーに通わせてよかったと感じました。**

【S.Hさんプロフィール】

2008年キンダーキッズ西宮校卒園。小学1年生で英検準2級、高校3年生で1級に合格。高校3年生の時、英語によるディベート等、中学生が教養を競う総合競技「World Scholar's Cup 2019」に出場し、日本ラウンド、シドニーグローバルラウンドと勝ち進み、イェール大学で行われる世界決勝大会に進出。見事writing部門で個人入賞を果たす。2021年9月～2022年5月トロント大学へ交換留学。2022年5月～10月、在大阪・神戸米国総領事館が主催し、グローバル社会のリーダーを育てるプログラムAmbassador's Youth Council 4期生に参加。現在、オンライン英会話教室を運営中。

【World Scholar's Cup とは…】

World Scholar's Cup(WSC)は、英語によって教養を競う総合競技。3人1組のチームで出場し、科学技術、歴史、文学、音楽・美術、社会、毎年変わる特別科目の6科目に関して、クイズ、ディベート、ペーパーテスト、エッセーの4種目で個人・チームの得点を競う。世界約65カ国から15,000人以上の中学生が参加。地域ラウンド、グローバルラウンドを上位成績で勝ち進んだチームは、Yale大学で開催される決勝大会(Tournament of Champions)に参加する権利が与えられる。日本では2012年に初めて地域ラウンドが開催され、世界の中学生との交流を通じ、国際理解を深める貴重な機会となっている。



Sさんは高校時代にWSCに出場し
決勝大会に進出



009 Graeme Wilkinson

ニュージーランド・ダニーデン

奈良登美ヶ丘校 キンダー1クラス担任

自然豊かな学園都市ダニーデン

山と農地が広がる中に小さな町が点在するニュージーランド南島。その中のダニーデンという町が私の故郷です。ダニーデンはニュージーランド最古の大学オタゴ大学の町として知られ、全国から多くの学生が集まります。スコットランドからの移民の子孫が多く、現在もスコットランドの伝統文化を色濃く残す町です。街には多くの砂浜があり、ペンギンやアザラシ、時にはクジラが見られることもあります。



幼児書籍の執筆へ

私はキンダーキッズに入る前、母国でも教鞭をとっていましたが、キンダーキッズではリーディングとフォニックスについて多くを学びました。リーディングとライティングに強いプログラムを持っている「キンダー流」のやり方を学び、自分でもいろいろと研究するようになりました。

そのことが、子どもたちの初めての読書ができるだけ優しいものになるような本を自分で開発することへとつながりました。現在はアメリカで出版されている、読書初心者幼児向けの本の執筆とイラストレーションを手掛けています。



NZ夏の伝統スイーツ「パブロバ」

ニュージーランドやオーストラリアで夏、クリスマスに食べる伝統的なケーキ「パブロバ」。外はサクサク、中はふんわりとした、メレンゲのケーキです。キウイフルーツとイチゴをトッピングするのがニュージーランド風。日本で作るなら、湿度が低い冬に作ることをお勧めします。とてもおいしいですよ!



QRコードからYouTubeで公開されているレシピ動画にアクセスします(2022年11月時点)



010 Thor Helgason

カナダ・バンクーバー

統括本部 エデュケーション課

実は「アーティスト大国」カナダ

セリヌ・ディオ、アヴリル・ラヴィーン、ジム・キャリー、アラニス・モリセット、ジャスティン・ビーバー、マイケル・Jフォックス、キアヌ・リーヴス…彼らは皆カナダ出身だということをご存知ですか? カナダの文化はアメリカと共通点が多く、またアクセントで出身地を見分けるのも難しいので、有名なアーティストが実はカナダ人だと知ると、「アメリカ人だと思っていた!」と驚かれることがよくあります。日本ではあまり知られていませんが、カナダは人口が少なくにもかかわらず多くのクリエイティブな成功者を輩出しているのです。



伝統が継続する日本文化の衝撃

カナダで幼少時代を共にした友人の祖父のうちのどちらかは必ずといっていいほど海外からの移住者で、両祖父母が同じ国の出身であることは、ほとんどありませんでした。初めて日本に来た時、ここが何百年も伝統を受け継いできた場所であり、家系が下の世代に継承されていることを感じ、その伝統と文化は目にするもの全てが驚きの連続でした。そしてすぐに日本の文化に畏敬の念と親しみを覚えました。

俳優・モデル業も並行する刺激的な日々

キンダーキッズの柔軟な職場環境のおかげで、仕事以外の関心事も追求できて本当にありがたいと思います。大学在学中に始めた俳優やモデル業を現在も時々続けられていて、コロナ前には世界中を旅し多くのクリエイティブな人々と出会い、とても豊かな経験となりました。シンガポールでJALのCMに出演したり、最近ではNHKの朝ドラ「カムカムエヴリバディ」に出演したりと、とても刺激的な日々を送っています。充実した人生を送れるよう応援・サポートをして社員の満足度を高めることで、子どもたちにとってより良い教室づくりにつながっているのだと思います。

病みつきになる美味しさ「プーティン」

プーティンはケベック州発祥の料理で、フライドポテトとチーズカードにブラウングレービーソースをかけたものです。カナダでは「プーティン・ウィーク」や「プーティン・フェスティバル」といった、シェフが独自のプーティンを作って競うイベントもあるほど、重要なソウルフードなのです。美味しいですよ!



QRコードからYouTubeで公開されているレシピ動画にアクセスします(2022年11月時点)

Introduce my country!



インフィニティ初等部 「お金の教育授業」 いよいよ始動!



プロ講師から学ぶ、お金の授業がいよいよ9月から本格始動。

インフィニティ国際学院初等部のお金の授業は、国際経営学者の菅原秀幸教授の教えを、低学年の子どもたちにもわかりやすいよう佐藤広樹先生がアレンジしたオリジナル・プログラムです。このお金の授業がどのようなものか、ご紹介いたします。

初回はオリジナル「お買い物ゲーム」でお金を使うこと、もらうことを体験しました。ルールはお店屋さんを買う人に分かれて、買う人は1円×10枚を手持ち資金に、買い物カードまたはお仕事カードを自分で選んでお店屋さんを介してお金のやり取りを行います。例えば買い物は「指輪を買って3円はらう」、お仕事は「新しい薬を開発して2円もらう」など。「ボーナスカードを引く」が出たら条件があえば臨時収入を手に入れます。まず仕事でお金を増やしてから買い物をする子ども、先に買い物をしてお金が減ってきたら仕事をする子どもなど性格が現れます。もし、お買い物をしたのにお金がない!という場合は働いて稼がなければなりません。みんなお買い物ゲームに夢中です。



「どうしたらお金がもらえるの?」という問いに「働いたらもらえる」と答える子どもたち。佐藤先生は「なぜ働いたらお金がもらえるの?」という、大人でも答えに困りそうな問いを投げかけます。悩む子どもたちに佐藤先生が与えた答えは「お金は、うれしいな、楽しいなと思ってもらえたらもらえるんだよ」というものでした。まだほんの始まりに過ぎませんが、**子どもたちはお金は感謝の証だということを学びました。**

次回までの宿題として家族に、

①どんな仕事をしているの? ②どこで仕事をしているの? ③だれを笑顔にしているの?

についてヒアリングすることになりました。

菅原教授、佐藤先生にお金の授業の特長や授業をして伝えたいこと、身に付けてもらいたい事を伺いました。

お金の授業を通して学んでほしいことは?

●**お金は感謝の証であり、人の役に立つことが大事** ●**お金の価値を知る事は自己投資につながる**
他のお金の授業と違う点は?

よくある金融教育はお金にフォーカスして教えるものが多いですが、私たちは仕事をして人を幸せにすることで対価は得られるのだということと、自己投資の概念を徹底して教えます。学習指導要領に縛られる公立小学校で、お金の教育を組み込むことは非常に困難であるため、ますます欧米との差が開くことを危惧しています。スポーツにもルールがあるように、お金にもルールがあります。多くの親世代はそのルールを知らないことで損をする人も少なくありません。私たちはできるだけ多くの子どもたちがお金のルールを学んで、**自分の夢や希望を実現するために、賢くお金を使えるようになってほしい**と願っています。

授業終了後、「とにかくすごく楽しかった!」と目を輝かせていらっしやっただお二人。普段は大学生に教えている菅原教授も、子どもたちとお買い物ゲームで盛り上がっていました。ぜひ、私たちも子どもたちと一緒に勉強したいと思います。



【菅原 秀幸教授 / 北海学園大学 経営学部】
早稲田大学大学院商学研究科博士課程修了。イノベーションの中心地、スタンフォード大学、ワシントン大学で研究を重ね、「コーチングの科学」を確立。国際経営学者、アカデミック・コーチ、また世界の貧困に挑む社会起業家としても活動。



【佐藤 広樹先生 / ファイナンシャル・プランナー】
北海学園大学で菅原教授に師事、卒業後大手金融機関へ就職。顧客の夢の実現を最後までサポートするために独立。企業経営のリスク管理や相続・事業承継対策を専門とする。

Interview

卒園生に聞く

きょうだいで1歳から大学生まで
超キンダーっ子をご紹介します



Grad Club
Creating bilingual young adults



兄
K.Iさん

奈良県立医科大学
医学部 2回生
キンダーキッズ
東大阪校卒園

キンダーキッズ東大阪校を卒園したK.Iさん、C.Iさん兄妹。お二人とも1歳で入園され、卒園後も高校卒業までGrad Clubに通い続けられて実に18年間という長期に渡ってキンダーキッズとお付き合いをいただきました。お二人揃って医大生となられた現在も、兄Kさんは関西、妹Cさんは福岡で、Grad Clubのアルバイトとして引き続きキンダーキッズとのかかわりが続いています。そんな「超キンダーっ子兄妹」お二人のお話をお聞きました。

妹
C.Iさん

福岡大学
医学部 1回生
キンダーキッズ
東大阪校卒園



▶ **キンダーでの一番印象に残っている思い出は?**

(兄) キンダーキッズに通っていた頃は少々腕白が過ぎたので、公園に連れて行ってもらえなかったことが今でも印象に残ってます。

(妹) サークルタイムにみんなでゲームやダンスをしたり、クリスマスコンサートやハロウィンパーティー、英語や数字の勉強等、**日本の幼稚園ではできない経験をたくさんでき、キンダーが大好きで毎日楽しかったことを覚えています。**

▶ **高校生までGrad Clubを継続してよかったと思うことを教えてください。**

(兄) ネイティブの先生と毎週話せるので、勉強していることをアウトプットできたのが良かったと思います。

(妹) 中学までは英会話の授業があり、多少日常生活において英語に触られたのですが、高校では受験対策英語の授業しかなかったため、週一回Grad Clubで生きた英語に触れる機会ができたことがよかったと思いました。

▶ **Grad Clubでアルバイトをしようと思った動機と働いてみた感想を教えてください。**

(兄) **大学でもネイティブの先生と度々話したり、勉強したりしているのですが、もっと英語を話す機会が欲しかったのでアルバイトをしようと思いました。** Grad Clubの生徒たちを見て自分もこんな感じだったなと懐かしく思いながら楽しく働かせてもらっています。

(妹) 大学の英語の授業が高校と同じように、文法やTOEIC対策ばかりだったため、**もっと英語を話したいと思いました。楽しかった思い出に耽りながら、小さな子たちに癒され、楽しんで働いています。**

▶ **将来の目標を教えてください。**

(兄) 救急医として日本の医療に携わりたいと考えています。

(妹) 日本の方にとっても海外の方にとっても嬉しい場となるような病院を築き、患者さんに安心してもらえるような医師になりたいと思っています。



ご兄妹揃って立派なお医者様になれる日がとても楽しみです!